

子どもの育ちを支え合う。

親子でのびのびと遊びながら社会性を育む 2歳児のための親子プログラム「まつの子ぐみ」。

常磐大学幼稚園では、2000年度から地域の子育て支援活動の一環として、幼稚園入園前の2歳児を対象とした親子プログラム「まつの子ぐみ」を実施しています。2012年度は5月から2月まで計53回を予定。親と一緒に遊びながら、同じ年齢の子どもたちと触れ合うことで、少しずつ集団生活に慣れ、幼稚園入園前に社会性の基礎を育むことを目指します。まつの子ぐみでは、幼稚園を囲む豊かな自然を生かし、季節に合わせた行事や企画など、月ごとにテーマを設けています。水遊びや、絵の具遊び、ごっこ遊びなど、幼稚園だからこそ体験できる、いろいろな遊びを通じて、子ども同士や親子間だけでなく、親同士の交流が広がることも期待されています。本学ゆかりの「常磐松」にかけ、子どもの成長をゆつくり「待つ」想いをつなぐ「まつの子ぐみ」。併設する大学・短大で幼児教育を担当する教員もサポートしているため、子どもの発達や食事、生活面での悩みなどについて、いつでも相談できる環境が整っていることも特徴です。



少し離れて見守る 大切さを学ぶ

まつの子ぐみ 保護者 鈴木 理絵子

長女も常磐大学幼稚園の修了生でした。経験豊富な先生方と、自然に囲まれた環境の中、体験を通じて生きる力を育むという園の方針を信頼していたので、迷わず参加を決めました。

季節の行事をお祝いすることで、伝統行事に関心を持ったり、同い年の友達と一緒に遊ぶことで、いろいろなこと悪いくことを理解できるようになりました。私自身、親としてどこまで子どもに関わるべきか悩むこともありますが、短期大学の木村先生のお話を聞いたことで少し離れて見守ることの大切さを学びました。先生やお友達など、家族以外から認められることで、子どもが自立への第歩を踏み出せたらいいと思っています。



悩んでいるのは自分だけじゃない 親同士の触れ合いで生まれる安心感

常磐短期大学 幼児教育保育学科 専任講師 木村 由希

まつの子ぐみでは、年2回、親だけで子育てについて話し合う機会を設けています。小さい子どもを抱えていると、普段は親同士ゆっくり話をする時間がとりにくいもの。子どもと離れて、ゆっくり・じっくり話をすることで、子どもや子育てについて客観的に考えたり、悩んでいるのは自分だけではないことに気付いたりし、安心して、自信を持って子どもと向き合えるようになることを期待しています。

今回は事前にアンケートをとり、他の家庭でのやり方で聞いてみたいことを書いていただきました。起床・就寝時間、テレビ視聴、読み聞かせ、家での遊び、習い事…。トイレトレーニングも話題にしました。

2歳児はだんだんと知恵が付いてくる時期で、この1〜2年はいわば親子の知恵比べ。親の関わり方にも工夫やバリエーションが求められます。まつの子ぐみのような機会に先生や他の親たちの関わりを見たり、話を聞いたり、またネットや育児書を参考にしたりして、関わり方の幅を増やすとよいでしょう。そして、子どもと同じ土俵には立たず、心理的に少し離れた視点からいろいろな投げかけを試してみる。子どもの反応を「そう来たか!？」と受け止められるよう

になると、子どもの成長を楽しめるようになるかもしれません。

また、「ほく(わたくし)ってすごい」という誇らしさの芽生えるこの年齢は褒めて育てることが有効な時期でもありません。例えば、ご飯をたくさん食べられない子には初めから量を少なくして「全部食べられたね。えっ、おかわりもするの? すこいなあ」という具合に。意識して褒める場面を作って後押ししてあげるといいですね。

「魔の2歳児」という言葉もあるくらい、この時期の子育ては親にとって大変といわれます。みんな悩む時期だからこそ、上手に情報交換しながら、乗り切っていきたいものですね。



自我の芽生える難しい時期 親と共に子どもの成長を見守る

常磐大学幼稚園 教頭 小貫 東里

このプログラムは、子どもたちに集団行動に慣れてもらうと同時に、保護者の方には園での子どもたちへの関わり方を見ていただき、子育ての参考にしていただくことが目的です。年間を通じて、周囲の自然の豊かさや季節感を味わいながら、砂場遊びや絵の具遊び、あるいはごっこ遊びをしながら、保護者の方と一緒に子どもの育ちを支え合うことを目指しています。また、幼稚園の教師や短大で幼児教育を専門に研究されている先生方に、子育ての悩みを直接相談することもできますので、ぜひ活用していただきたいと思っています。

未就園の時期から集団生活を体験することで、子どもたちは食事のマナーや、我慢することを覚えるなどの社会性を身に付けていきます。そのためか、まつの子ぐみを経験した子どもたちは、就園しても周りの子どもたちに良い影響を与えているようです。

保護者の方も一緒に育てようという意識を持っていくと、子どもたちも自然に積極的に声をかける場面も多く見られ、自然に親同士の情報交換も活発になっていきます。

自我が芽生え始めるこの時期は、親の言うことを素直に聞けなくなることが増えてきます。ときにはお友達と気に入らなかったものを取り合うこともあります。乗り越えなければならないものも多い時期で

すが、密に親子で関わっている、またとない貴重な時期でもあります。この時の一瞬を大切に、子どもとよく向き合うことが、将来しっかりとした人間に育つ基礎になります。

発達面では個人差があり、親はどうしても自分の子どもと他の子どもを比べて、焦ったり悩んだりしてしまいがちですが、保護者の方には、「みなさんその育ちを通過していくので大丈夫ですよ」とお伝えしています。今できなくても先々にできるようにになればいい、と長い目で子どもを見守り、安心して子育てができるよう、当園で楽しい時間を過ごしてもらえことを願っています。

